

学校教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成
スクール・ポリシー	<p>定時制</p> <p>【育成を目指す資質・能力に関する方針】〈このような力を育てます〉</p> <p>(1) 多様な生徒の多様な学習ニーズに対応しながら、社会的・職業的自立への意志を持って地域の未来をひらく「人財」を育てます。</p> <p>(2) 学習活動・特別活動を通して、「霞城8C（エイト・シー）」を身に付け、社会的に自立できる力を育成します。「霞城8C」とは、自己肯定力、傾聴力、読解力、思考力、表現力、行動力、自己管理能力、自立力の8つの資質・能力です。</p> <p>【教育課程の編成及び実施に関する方針】〈このような教育活動を行います〉</p> <p>(1) 「午前（Ⅰ部）、午後（Ⅱ部）、夜間（Ⅲ部）」の時間帯から自分に合った学びのスタイルを選択できるようにするとともに、所属以外の部での単位修得により3年でも卒業可能なカリキュラムを提供します。</p> <p>(2) 自分の興味・関心や進路希望に応じて選べるように、専門教科の商業科・家庭科の科目なども含めた多様な選択科目を設定します。</p> <p>(3) 「霞城8C」を身に付けるため、入学式や卒業式などの学校行事や、クラスマッチ、霞城祭（文化祭）などの生徒会活動、ホームルーム活動などの特別活動を実施します。</p> <p>【入学者の受け入れに関する方針】〈このような生徒を待っています〉</p> <p>(1) 本校定時制で学びたいという強い意志を持ち、「進路目標実現」という明確な意識を持って努力できる生徒を募集します。</p> <p>(2) 授業と特別活動において、他の人と共に集団で学び、活動できる生徒を募集します。</p> <p>(3) お互いの個性を理解し、違いを認め合い、成長し合える生徒を募集します。</p>		
	<p>通信制</p> <p>【育成を目指す資質・能力に関する方針】〈このような力を育てます〉</p> <p>(1) 多様な生徒の多様な学習ニーズに対応しながら、社会的・職業的自立への意志を持って地域の未来をひらく「人財」を育てます。</p> <p>(2) 学習活動・特別活動を通して、「霞城8C（エイト・シー）」を身に付け、社会的に自立できる力を育成します。「霞城8C」とは、自己肯定力、傾聴力、読解力、思考力、表現力、行動力、自己管理能力、自立力の8つの資質・能力です。</p> <p>【教育課程の編成及び実施に関する方針】〈このような教育活動を行います〉</p> <p>(1) 「普通科、服飾科」から自分に合った学びのスタイルを選択できるようにするとともに、「学習報告書」を中心に自学自習で学びを進め、添削指導や面接指導を受け、試験に合格することで単位を認定します。</p> <p>(2) 自分の興味・関心や進路希望に応じて選べるように、専門教科の商業科・家庭科の科目なども含めた多様な選択科目を設定し、3年でも卒業可能なカリキュラムを提供します。</p> <p>(3) 「霞城8C」を身に付けるため、入学式や卒業式などの学校行事や、通教祭（文化祭）などの生徒会活動、ホームルーム活動などの特別活動を実施します。</p> <p>【入学者の受け入れに関する方針】〈このような生徒を待っています〉</p> <p>(1) 本校通信制で学びたいという強い意志を持ち、「高等学校卒業」、「進路目標実現」という明確な意識を持って努力できる生徒を募集します。</p> <p>(2) 基礎学力や時間管理の仕方を身に付け、自学自習ができる生徒を募集します。</p> <p>(3) 面接指導や特別活動に参加でき、お互いの個性を理解し、違いを認め合い、成長し合える生徒を募集します。</p>		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった



令和7年度 重点目標	評価項目	自己 評価	成果(○)と課題(●)	次年度への改善点	学校 関係者 評価	学校関係者の 意見等
1 個に応じた キャリア教育 の推進	① 個性を伸ばし自己を高める意識の涵養を図り、学習意欲の向上と「霞城8C」の育成を目指す ② 「キャリアパスポート」「進路ハンドブック」「進路の手引き」等の有効活用 ③ 外部人材・関係機関との連携	B	<定時制> ○霞城8Cについて様々な場面で意識させながら、生徒達に自己評価させた。 ●霞城8Cについて、保護者等を含めた一層の周知と生徒への指導の工夫が必要。	・生徒の指導について外部機関と連携を図りつつ、より一層効果的なものにする。	B	SSWを活用しながら、外部機関との連携・協力。生徒一人ひとりの背景・経験・ペースを尊重し、それぞれの興味関心を引き出せるような「社会との接点づくり」が大事。引き続き個性を伸ばし自己を高める意識の醸成を図ってもらいたい。保護者にも十分進路情報が届く方法も模索。
			<通信制> ○学級担任による個々の生徒に応じた個別支援。 ●「キャリアパスポート」の効果的な活用。	・「キャリアパスポート」の効果的な活用方法の研究。 ・必要に応じて外部機関との連携。		
2 学習指導の 充実による学 力の育成	① 「個別最適な学び」の推進 ② 「主体的・対話的で深い学び」に関する研究・研修 ③ 総合的な探究の時間等の充実を進め、「協働的な学び」を推進する	B	<定時制> ○「授業」や「総合的な探究の時間」を通じてICT活用能力が高まるとともに、プレゼンテーション力や対話力も伸びている。 ●生徒一人一人の適性に応じた「個別最適な学び」の提供については、現状を踏まえながら学校全体として研究していく必要がある。	・ICT活用能力をベースとした「協働的な学び」のさらなる強化。	B	通信制のさらなる修得率向上を期待。少人数での対話型授業を増やし、社会貢献や地域課題の解決を考える等。職員アンケートから学力の育成についてさらなる強化が必要。非ICT領域の思考などをする力、各自の目標に向けて進もうとする意欲を高めてほしい。チャットGTPなど、AIを駆使した技術
			<通信制> ○学習活動の活性化と単位修得率の向上のため、普通科研修会として「公開面接指導参観」を実施。 ●Google Classroom等のICT活用を積極的に取り入れた学習支援・指導の研究。	・Chromebook、Google Classroom等のICT活用を積極的に行い、通信制における「協働的な学び」のさらなる研究。		

					が様々な問題に関与していることを指導してほしい。
3 生徒指導の充実による生徒の社会力の向上	① 教師と生徒、生徒同士のふれあいを大切にし、ライフスキル・ソーシャルスキルの向上と自己肯定感・自己有用感を高める ② 自主・自律の生活態度と公共心の育成 ③ いじめ防止	B	<定時制> ○授業や行事など学校生活の様々な場面で自己肯定感や自己有用感を高めることができた。 ●周囲の人とのかかわり方を意識させつつ、公共心の更なる育成をめざす。	・各種行事や外部との関わりを通じて自己肯定感・自己有用感を高めるための仕掛けづくり。	B 通信制ではさまざまな学校行事に参加する生徒が増えることを期待。教員自身が社会課題やニュースに関心を持って生徒と共有したり、働く意味や価値観を率直に語る。生徒と先生のふれあいのさらなる向上が必要。「やってみよう」と思える生徒が増えて欲しい。年齢に関係なく健全な心身は食と睡眠が欠かせない。
			<通信制> ○健全な心身の育成を図るため、警察の方を講師とした「生活安全講座」を7月と11月に実施した。いじめ認知件数は0件。 ●特別活動等を通して多くの人と関わることで、自己肯定感の向上。	・講座や面接指導等を通して、スキルトレーニングの実施。	
4 心身の健康増進と安心・安全教育・管理の充実	① 自己管理意識の向上 ② 本校立地に応じた訓練・研修 ③ 危機管理マニュアルの点検	B	<定時制> ○訓練を昨年度より多くし充実させたことで、生徒の防災意識は高まった。 ○一斉メール配信システムを用い、緊急安否確認の訓練を行うことができた。	・本校立地条件を意識した防災訓練のあり方をさらに研究し充実をはかりながら、防犯・防災意識のさらなる向上につなげる。	B ビル全体の防災訓練に生徒たちも参加。SOSの出し方・受け止め方講座の開催や、話しやすい環境づくり・関係づくり等。出席率、履修者数が高水準で推移しており、安心して授業に出席できている生徒が多い。安全教育には、他校と異なった視点の安全安心もある。
			<通信制> ○不審者対策研修会および防災訓練を計画通り実施し、防犯・防災意識向上。 ●生徒の自己管理力の育成および学校生活の充実。	・危機管理マニュアルと各チャート(防災体制・不審者緊急対応)の確認。	
5 特別支援教育の推進	① 教育活動のユニバーサルデザイン等の推進	A	<定時制> ○個々の生徒の状況に即した支援や合理的配慮に	・個別支援の在り方について、教職員の意識の共通化、外部機関との更なる連	B SSWの常駐が実現。診断の有無に関わ

	<p>② 合理的配慮・支援の理解と実践 ③ 個別の支援計画の作成と実践</p>		<p>ついて、適切に行われている。 ●個々の支援計画の共通認識を図りながら、組織的に適切な対応につなげる。</p>	<p>携を強化するなど、より一層の充実を図る。</p>		<p>らず困り感を基準に考える支援体制づくりが重要。学校、家庭、SC、SSW等のさらなる連携が必要。多様な生徒が増加、教諭の忙しさにもつながっている。サポートする人材が十分配置。支援情報は速やかに共有することは、大切な指導の原点。</p>
<p>6 魅力・活力あふれ開かれた学校づくり</p>	<p>① 魅力ある生涯学習講座の検討 ② ガイダンス機能を果たす情報発信 ③ 外部諸機関との連携</p>	<p>B</p>	<p><定時制> ○生涯学習講座は、参加者からは好評である。情報発信についても、ホームページの他Ⅲ部がInstagramを活用するなど、総じて積極的に行った。 ●魅力ある講座のあり方の研究、講師より学んだ内容の積極的活用。</p>	<p>・より効果的でタイムリーな情報発信、外部諸機関との一層の協力と連携を進める。</p>	<p>B</p>	<p>できる範囲で市民の方々と一緒に学べる機会を継続。地域・生徒・多様性に開かれた学校である事が、よりよい学校づくりへの道、民間団体やビル内企業さんとの関わりを増やす等。教員、保護者交流の活発化、保護者の協力、地域資源の活用。山形県内で現代の若年層に求められる学校として存在感ができてきている。外部への情報発信はHPも有効手段の一つ。</p>
			<p><通信制> ○生涯学習講座は、前期と後期ともに2講座を予定通り開講。 ●生涯学習講座の参加者減少に伴い、魅力ある講座のあり方の検討。</p>	<p>・外部に向けて、効果的な情報発信。 ・必要に応じて外部専門機関との情報共有と連携。</p>		